

保育領域「環境」と小学校生活科の関連についての一考察
—環境構成の視点から小学校の授業実践を見つめる—
A Study on the Relationship Between the Childcare Field “Environment”
and the Living Environment Studies at Elementary School

石 井 健 作

福岡女学院大学 教職支援センター
教育実践研究 第9号 抜刷

(2025年3月)

保育領域「環境」と小学校生活科の関連についての一考察 —環境構成の視点から小学校の授業実践を見つめる—

A Study on the Relationship Between the Childcare Field “Environment” and the Living Environment Studies at Elementary School

石井健作

1 はじめに

2023年2月に取りまとめられた「幼保小の架け橋プログラム」¹⁾では、子どもの架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮し、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指している。ここでいう架け橋期とは、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間を指している。しかし、幼児教育施設と小学校においては、3要領・指針及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが求められているものの、未だ多くの課題があると整理されている。

課題の中の1つとして、幼児期に育まれた資質・能力が小学校教育にどのように繋がっているかを教育・保育の関係者がイメージを共有し、実践できるようにする必要がある²⁾とされている。筆者自身を振り返っても、初等教育に長く携わり目の前の子どもの姿を伸ばそうとしていたものの、それ以前の幼児教育がどのようなねらいの元、それぞれの施設がどのような特色を打ち出し、どのように行われているかを積極的に知ろうとするには至っていなかった。現在、保育者・教育者の養成に関わるようになり、幼児教育施設や小学校での子どもの姿、先生方の真摯な保育・教育の姿を見ながら、その接続期がどの程度重要かを痛感している。これは、現在求められている「持続可能な社会の実現」に向けての、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」³⁾にも繋がるものである。

接続期の「縦のつながり」⁴⁾の要となる教科である生活科で、身近な生活についてどのように子どもが気付き、見方・考え方を生かしながら、自立し生活を豊かにしていくかを考察・提案⁵⁾してきた。今回は、幼保小の架け橋という視点から小学校での教育を見つめるために、領域の関連が深い、保育領域「環境」の視点をもとに小学校生活科の授業実践を考察していく。

2 保育領域「環境」のねらいと環境構成で重視すること

3法令において、1歳児以上3歳児未満児と3歳児以上児では、領域「環境」のねらい⁶⁾を、

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

としている。ここでの重要な用語としては、「好奇心」と「探究心」が挙げられる。また、乳児期の園児では、「身近なものと関わり感性が育つ」のねらい⁷⁾を、

身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。

としている。ここでの重要な用語としては、「興味」と「好奇心」が挙げられる。

志村⁸⁾は、保育における遊びのきっかけとなる環境構成として、上記内容に共通している「好奇心」に着目し、好奇心を育てる環境構成を2つ提案している。1つ目の「遊びのきっかけとなる環境の構成」では、一人一人が作業に集中できるようにすること、また、もう1つの「子ども達の興味関心を踏まえた環境の構成」では、子どもがじっくりと活動に取り組んで素材の理解を深められる時間を確保することの必要性を述べている。

また、その遊びが安定・持続・展開する環境構成としては、試行錯誤や工夫が生まれる環境構成によって効果が生まれることを5歳児の事例をもとに説明している。その中では、物的環境のみならず、人的環境のありようも大きく関わり、子ども同士が互いに刺激を受けたり、理解を深めたりする機会となることも示唆している。

3 環境構成の視点から小学校の授業実践を見つめる

自発的な活動としての「遊び」は、幼児期特有の学習⁹⁾である。この「遊び」に関する環境構成の視点は、それに続く小学校教育の「学習」に関する環境構成の視点としても重要であると考ええる。前述の環境構成で重視することを視点として以下のように整理する。この視点に着目して環境構成を見直すことで、小学校教育でも子どもの学習が契機し、更には、安定・持続・展開すると考える。

Table. 1 接続期における環境構成の視点の整理

| | | |
|-----|------|-----------------------|
| 場 | ①集中 | 一人一人が作業に集中できる場を設定すること |
| | ②工夫 | 試行錯誤や工夫が生まれる場を設定すること |
| | ③関わり | 子ども同士の学びの場を設定すること |
| ④時間 | | 素材の理解を深められる時間を確保すること |

そこで、本研究では小学校生活科の授業実践を、この4つの環境教育の視点で見つめ直す。筆者が2018年度から校内研究¹⁰⁾に関わっている福岡市立笹丘小学校の生活科部の研究主題と授業実践を取り上げ、授業後に行った著者からのフィードバックから改めて考えるが、以降、研究内容や授業計画に関して4つの視点が見られる主な箇所を、それぞれ記しておくこととする。

(1) 研究主題

笹丘小学校では、2024年度は以下のような研究主題を設定し、実践を重ねている。

児童自ら学びを拓く、理科・生活科の学習指導法の研究
～自己表現する場面の工夫を通して～

(2) 研究の内容

- 単元を「であう」段階、「ためす」段階、「ひらく」段階の3段階に分ける。
- 「ためす」段階での、「共通体験」から生まれた確かな思いや願いを実現させるための自己決定や方法の工夫を行う。②工夫

Table. 2 各段階のねらい

| 段階 | 各段階のねらい |
|-------|---|
| であう段階 | 身近な生活に関わる見方・考え方を生かして「共通体験」をすることで、これからの活動を進める上での方向性を示し、児童が確かな思いや願いをもつこと ①集中 |
| ためす段階 | 「共通体験」から得た思いや願いをもとにした何がしたいかを自己決定し、その願いを実現するために具体的な活動や体験を繰り返し、その過程で実感を伴った気づきを得ること ②工夫 |
| ひたる段階 | これまでの活動（であう段階、ためす段階）を振り返り、自分や友達の良さに気づき、互いのよさを認め合うこと ③関わり |

<「共通体験」から生まれた確かな思いや願いを実現するための自己決定の場や方法の工夫>

- ア. 効果的な人々、社会及び自然との出会い
- イ. 場や時間設定の工夫
- ウ. 教師の言葉かけや問いを効果的に行う
- エ. 個々の児童の思いや願いを丁寧に見取る
- オ. 教師の板書や教室環境の工夫

上記の「共通体験」を取り入れた授業の有効性や今後の展望については、多くの実践を通して明らか¹¹⁾になってきている。今回は、この「共通体験」を核とした単元構成で行われた授業実践を、環境構成の4つの視点で改めて見つめたいと考える。

4 授業実践の概要とフィードバック

2024年度は2度の研究授業（全体研修授業：第1学年、部内研修授業：第2学年）を行い、研究内容を検証してきた。今回は、全体研究授業として行われた第1学年の深水南那先生の実践（第20時）を中心に紹介する。

- (1) 実施日 2024年10月～11月
- (2) 実践学年 第1学年 29名
- (3) 指導者 教諭 深水南那 先生
- (4) 単元名 「たのしいあきいっぱい」¹²⁾
- (5) 学習指導要領での指導内容¹³⁾

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くと共に、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

(6) 主な単元計画（全21時間） ④時間

Table. 3 本実践における単元構成

| 段階 | 配時 | 学習活動 |
|-----|----|--|
| であう | ① | 1 秋見つけを行う。 |
| | ④ | 2 共通体験 「落ち葉」や「どんぐり」「松ぼっくり」等の秋の自然物を使って工作をする。 |
| | ② | 3 共通体験を振り返り、気付きを確認する。 思いや願い ・どんぐりを回して遊びたいな ・他の遊びもしたいな ・もっとたくさんの秋の物を集めたいな |

| | | |
|-----|-------------------------------------|--|
| ためす | <p>④</p> <p>②</p> <p>③</p> | <p>3 集めた秋の自然物を使って、それぞれが作りたい物や遊びを作る。</p> <p>4 同種（質）の遊びを考えている友達とグループを組み、遊び方やルールを考えて遊び、もっと楽しく遊べるように、アイデアを出し合い改良しながら遊ぶ。</p> <p>5 もっと楽しく遊べるように作り方や遊び方を工夫する。</p> <p>思いや願い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・他の友達が作ったおもちゃで遊んでみたいな</p> </div> |
| ひらく | <p>③</p> <p>① (本時)</p> <p>①</p> | <p>6 秋のおもちゃ祭りを開く準備をする。</p> <p>7 秋のおもちゃ祭りを開き、友達が作ったおもちゃで遊ぶ。</p> <p>8 単元全体を振り返り、学習をまとめる。</p> <p>思いや願い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・秋っておもしろい、楽しいな</p> <p>・来年もまたしたいな</p> </div> |

(7) 本時目標

- 自分のおもちゃについて、遊び方や工夫したところを友達に伝えたり友達のおもちゃの良さを見つけたりすることができる。【思考力，判断力，表現力等の基礎】 ②工夫
- 自分がおもちゃや遊びを作ったことで友達と楽しく遊べたことに気づき、活動を楽しむことができる。【学びに向かう力、人間性等】 ③関わり

(8) 本時の展開 (20/21) 年11月下旬 場所 多目的室

Table. 4 本実践における本時の展開

| 学習活動と内容 | 支援 |
|---|---|
| <p>1 前時までの学習や活動を振り返り、めあてを確かめる。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">あきのおもちゃまつりを たのしもう。</div> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を想起できるようにするために、学習の足跡を掲示する。 ○ 前時に立てた子ども達一人ひとりの「秋のおもちゃ祭り」へのめあてを確認することで、本時の活動への目的意識を明確にし、思いや願いを実現できるようにする。 ○ どんなおもちゃで遊べるのかを全員で確かめ、おもちゃ遊びに興味を持てるようにする。 |
| <p>2 おもちゃで遊ぶ。</p> <p>(1) 遊びの流れや約束を確認 ・挨拶→説明→質問→遊ぶ→感想・お礼</p> <p>(2) おもちゃで遊ぶ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のおもちゃの工夫したところや遊び方が良く伝わるようにするために、言葉や絵で発表するようにする。 ○ 店側、客側に分かれて、友達の遊びの工夫や良さを見つけながら遊ぶことを伝える。なるべくたくさんさんの遊びを体験できるように、遊びに十分浸る時間を確保する。 ○ 店側と客側がわかるように、店側の時は、秋の帽子を身に着ける。 |
| <p>3 本時学習をふり返える。②工夫 ③関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と秋のおもちゃで遊んで楽しかったよ ・もっとみんなのおもちゃで遊びたいな ・みんなが楽しいと言ってくれて嬉しかったよ ・上手に遊び方の説明をすることができて嬉しかったよ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「あきのおもちゃまつり」 大せいこう</div> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童一人ひとりの本時のめあてをもう一度提示することで、自己決定しためあてに立ち返って振り返ることができるようにする。 ○ 振り返りの観点（自分の本時のめあてについて（黄色）・友達のおもちゃで遊んでみて気付いたこと（オレンジ））で色分けされた色画用紙に、ふり返りを書き、黒板に貼ることで、子どもの思いを可視化できるようにする。 ○ 楽しかったり嬉しかったりした理由を尋ね、児童の気づきを引き出せるようにする。 |

(9) 授業実践へのフィードバック (2024年11月28日付) 一部加筆・修正

*** 【以下、フィードバック内容】 ****

1 全研授業を拝見して・協議会に参加して

(1)「本時の目標」から

今回の授業では、本時目標は以下の2つでした。それぞれについて考えたいと思います。

自分のおもちゃについて、遊び方や工夫したところを友達に伝えたり、友達のおもちゃの良さを見つけたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等の基礎】

○ 遊び方や工夫したところを友達に伝える姿が見られました。

けん玉コーナー担当の子どもは一人でしたが、次々にお客さんがやってきました。途中、3名のお客さんがやってきて、「一番簡単なのはどれですか？」と尋ねると、担当の子どもは「小さいのは入れにくいよ、松ぼっくりは大きいから入るよ」と自分が工夫した玉の部分に着目して説明をしていました。また、迷路コーナーの子ども達は、「この迷路は・・・」と迷路の中のコースの説明を行い、その後は紙皿に入ったドングリを見せ、この「ドングリは・・・」と、転がしやすいドングリを選んであげていました。自分たちが作り、遊んだ時に感じたことを楽しそうに話す姿から、子ども達が伝えたいという意欲がうかがえました。(Fig. 1)

○ おもちゃ祭りを楽しむ姿から、友達のおもちゃの良さを見つけていることが分かりました。

今回、楽しそうに遊ぶ姿から、それが達成できたことは明らかです。次々にコーナーに行き、満足している様子が分かりました。目標は十分に達成できていると思います。一方、感じたことをどのように言語化させるかが課題となると思います。振り返りの葉っぱカードを拝見しましたが、ほとんどの子どもが「自分が伝えたこと」については書けていました。(Fig. 2) 一方、友達のおもちゃの感想が見当たりませんでした。「おもちゃ祭りをしてみても」の茶色カードには、「友達のおもちゃを遊んでみて」に限定しても良かったかもしれません。黄色カードが「自分のめあて」のことでしたので、自分のこと(自分視点)と相手のこと(相手視点)との両面で、おもちゃ祭りを評価させると良いと思いました。

● 「友達に伝える」という方法に、動画を取り入れてみてはいかがでしょうか。 今回の授業では、

前述の通り、おもちゃの良さを、一緒に遊びながら紹介するというものであったと思います。その中で、達成できているかを教師が見取るためには、それぞれの子どもが、どのような言葉で伝えているかを知る必要があります。しかし、今回のようなコーナー別の活動になるとそれが難しくなります。それを克服するためのヒントは、マラカスコーナーの動画にありました。

(Fig. 3) 少々手間はかかりますが、事前に自分のおもちゃのアピールポイントを動画にまとめ、それを見てもらう。そうすれば、動画準備の段階で、自分のおもちゃの良さを上手に伝えるために、端的に説明を考えたり、実演したりすることができると思います。また、見る子どもも、友達が行う実演を見たり、分からない時は繰り返し確認したりすることで、内容をしっかりと理解できます。更に、それは、教師が後に評価に使うこともできます。ICTの活用は、手立てとして大変有効だと思いました。



Fig. 1 友だちに伝える姿



Fig. 2 友だちの良さを見つける姿



Fig. 3 マラカスコーナーの動画

自分がおもちゃや遊びをつくったことで友達と楽しく遊べたことに気付き、活動を楽しむことができる。【学びに向かう力、人間性等】

○ 友達と一緒に楽しく遊べたことに気付いていました。

まとめの時間に深水先生は「自分のめあて」を丁寧に振り返り、確認されていました。感想を尋ねられた子どもからは「みんなと一緒に遊べた」等の発言がありました。また、前述の通り、振り返りの葉っぱカードには、活動への満足感がたくさん書かれていました。

(Fig. 4) ほとんどの子どもが「楽しい」等、満足感を表しています。また、「みんな」や「いっしょ」というキーワードも出てきました。

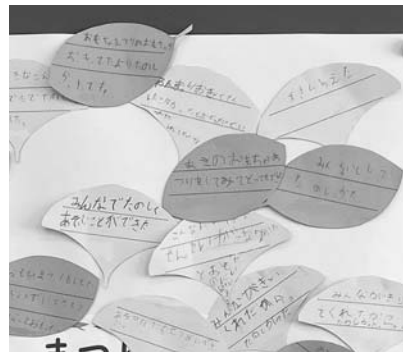


Fig. 4 児童が書いた振り返りカード

これは、この目標が達成できている根拠となります。今回紹介したテキストマイニング（ユーザーローカル テキストマイニングツール¹⁴⁾）で、出現した特徴語をスコア順で表しました。(Fig. 5)



Fig. 5 振り返りカードに出現した特徴語

今回のテキストは、茶と黄の両方のカードを一つのテキストとして処理しました。

スコア順

スコアが高い単語は、そのテキストを特徴づける単語です。

※ 出現頻度等は異なります

(2)「協議の柱」から

「協議の柱」からは、以下のように考えました。

【であう段階】 共通体験と発表（自己表現）の意識のつながりについて

教室内に共通体験である「秋の作品」が飾ってありました。(Fig. 6) 10月初旬でしたので、2か月ほど前の学習です。普段の学習では、これほど意識が続くことがあるでしょうか。今回、長期間にわたり、子どもの追究意欲が続いていたのは、やはり共通体験での「秋」との出会いと、その後の単元構成によるものでしょう。共通体験と単元構成がしっかりと練られていたので、本時の自己表現になっていると考えます。

【ためす段階】 児童の活動や体験について

今回子ども達の活動や体験が充実したことは、様々な面からわかりました。まずは、深水先生の準備（一人一人の見取り）です。子ども達がどんなめあてを持って毎時学習し、どんな考えを持っているかが一覧表で示されていました。(Fig. 7) この内容を拝見するだけでも、教師が意図した活動がきちんとなされていたことはわかりました。

また、今回の授業での子どもが作った作品からも、その充実が伝わってきました。作品の出来



Fig. 6 共通体験である児童作成の「秋の作品」



Fig. 7 児童の活動の振り返りの一覧

「自己決定」及び「自己表現」という視点では、それぞれ達成できていたと思います。今回は、「自己決定」を自分のめあてを決めることとしていました。これは、先生が丁寧に一覧表にまとめていらっしゃいました。また、導入時にも丁寧に振り返っていました。最後のカードの内容からも多くの子どもが自分のめあてを達成できていると評価できます。また、「自己表現」についても、満足感や達成感を書き表すことができたことから、達成できていたと思います。一方、前回も書いていましたが、テーマでは、「自己決定」と「自己表現」は並列にはなっていません。再度、「自己表現」、「自己実現」、「自己決定」の関連を整理されてはいかがかと思います。

○ 架け橋：幼児教育と小学校教育の接続について

幼児期の終わりまでに育った姿(実感把握)

共通体験 気付き

思いや願い

自己表現(決定・実現) 気付き

思いや願い

自己表現(決定・実現) 気付き

思いや願い

自己表現(決定・実現) 気付き

満足感・成就感

自ら学びを拓く

それは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」ということで示されています。それら
をしっかりと読み取り、小学校教育にどのように接続するのか、また、その際に生活科ではどん
な学習を行えばいいかを考えるのが、これからは大切になってくるのではないのでしょうか。
(Fig. 8)

【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】

○健康な心と体、○自立心、○協同性、○道徳性・規範意識の芽生え、○社会生活との関わり
○思考力の芽生え、○自然との関わり・生命尊重、○数量や図形、標識や文字などへの関心・
感覚、○言葉による伝え合い、○豊かな感性と表現

3 板書から

授業後の板書を見ると、良かった点や改善点が明確になります。(Fig. 9)



Fig. 9 本時の学習後の板書

- 右の葉っぱカードから、子ども達が満足感・成就感を持ったことが分かります。一人一人が自分の活動を振り返ると共に、学級全体のまとめに繋がっているということが良く伝わってきます。
- コーナー配置図が示されているのが良いと思います。子どもがどの場所に行こうかという見通しを持つことに繋がります。また、おもちゃの写真も提示してあり、視覚的に追究意欲も沸きます。
- 前述のように、カードの内容が自分視点と相手視点の両面から書かせても良かったかなと思いました。それに伴い、初めの左のフラッシュカードの内容も、<お店屋さん>「秋のものの楽しさを伝える」「自分が工夫したところを伝える」と、<お客さん>「友達のおもちゃの良いところを見つける」と言ったように、より「何を」という視点を明確にして子どもに伝えても良かったかなと思いました。

4 教室環境から

今回は、子どもが「秋の自然（物）」や「自分たちが作ったおもちゃ」を味わうことができる

ように環境構成してありました。(Fig. 10、Fig. 11、Fig. 12)「これぞ、生活科の環境！」という感じで大変感心しました。



Fig. 10 共通体験「秋の作品」 Fig. 11 発表用の落ち葉のかんむり Fig. 12 教室側面の落ち葉の掲示

5 全体を通しての感想

深水先生、全研授業、大変お疲れ様でした。夏休みの審議から始まり、単元導入「であう段階」、そして今回の単元末「ひらく段階」と参加させていただきました。1年生の先生方がチームとなり協働的に教材研究を行い、また、先生方自身が楽しみながら授業づくりをしてある姿を拝見して、「子どもと一緒に、先生も授業を楽しむこと」という私自身が若い時に先輩の先生から言われたことを思い出しました。

前述の通り、常々私は小学校教育、とりわけ生活科は幼児教育との繋がりが大切だと考えています。幼児教育で一番大切にしてあるのは、中でも環境構成です。幼児教育では、「環境」とは「子どもを取り巻く全て」を指します。自然環境だけでなく、物的環境、そして何より人的環境があります。教師も子どもの学びにとっての大切な環境の一つなのです。深水先生の一生懸命の姿、そして温かい姿から、日常的に子どもはたくさんのことを学んでいるのだらうと感じました。

私も改めて教師の姿について学ばせていただきました。本学の学生へも伝えたいと思います。深水先生、1年生の先生方、素敵な授業をありがとうございました。笹丘小学校の先生方、1年間ありがとうございました。



*** 【以上、フィードバック内容】 ****

6 授業実践の成果と今後の展望

笹丘小学校の授業実践において、接続期における環境構成の視点から、以下のことが考えられる。

(1)「集中」の場の視点から ①集中

子どもが秋の深まりを感じ、自然物を生かした遊びやおもちゃに没頭する姿が見られた。この視点では、一人一人が作業に集中できる場を設定することが重要である。単元「であう段階」での秋見つけ及び共通体験時の子どもの姿では、作品作りに没頭する子どもの姿が見られた。製作中の子ども達はわき目も触れずに自然物を自分の思いに沿って組み上げていた。出来上がった作品を見ても、それぞれが秋の自然物の特徴を生かしながら、一人一人が秋の自然物の面白さに気付いたことを作品として形に表していた。これは、単元の初めに「共通体験」として秋（自然）の良さを感じながら、作品作りができる場を設定したことが有効であったと考える。

(2)「工夫」の場の視点から ②工夫

「共通体験」をもとに、秋の特徴を見付け、自分なりの工夫を取り入れた遊びやおもちゃづくりを行うことができていた。この視点では、試行錯誤や工夫が生まれる場を設定することが重要である。今回の「共通体験」では、「秋の作品」を製作することであった。子ども達は、秋の自然物に直接触れることで、色や形、大きさなどの特徴に気付くことができていた。一方では、秋の作品だけで満足しないような単元構成も仕組んであった。「ためす段階」では、共有体験をもとにして、同質のグループで遊びやおもちゃ作りを行い、更には同種（質）の遊びを考えている友達とグループを組み、遊び方やルールを考えて遊び、もっと楽しく遊べるように、アイデアを出し合い改良しながら遊んだり、もっと楽しく遊べるように作り方や遊び方を工夫したりするようにした。初めの活動で満足せずに、工夫・改善の余地を残しておくことで、子どもの学習が充実したものになることが明らかになった。

(3)「関わり」の場の視点から ③関わり

特に実践の第20時（本時）では、友達との関わりを子どもたち自身が大切にしている姿が多く見られた。この視点では、子ども同士の学びの場を設定することが重要とされている。単元末の「ひろく段階」では、「秋のおもちゃ祭り」を開いた。その中で、自分の遊びやおもちゃの良さを友達に知ってもらおう、また、友達の良さを見つけようとする姿が至る所で見られた。その結果として、Fig. 5のような満足感が得られたと考える。「みんなと楽しく遊ぶことができた」や「みんなとして楽しかった」等の感想も得られている。「おもちゃ祭り」などの交流や発表の場を設けるなど、自分だけで楽しむだけでなく友達との関わりを必然的に生み出す場は、子どもの満足感や成就感を味わわせるために有効であることが改めて明らかとなった。

(4)「時間」の視点から ④時間

自然物やそれを用いた活動にどっぷりと浸ることができる単元構成を行ったことで、子ども達の満足感が高まった。この視点では、素材の理解を深められる時間を確保することが重要であるとしていた。今回の単元構成は、全21時間の構成であった。「共通体験」→「製作・遊び」→「工夫・改善」→「おもちゃ祭り」と、活動そのものにどっぷりと浸るに十分な単元構成及び時間設定であった。身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動の時間を十分に確保したことは、秋の自然物の良さを見つけ、更にはその面白さや自然の不思議さに気付くと共に、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする上で、有効であった。

一方、本実践を通して、本研究の継続・発展に関わる今後の展望として以下のものを考える。

● 小学校の実践で得られた知見を再度、幼児教育施設で見つけ直すこと。

今回は、幼児教育の視点を小学校教育の実践で見つめ直した。「幼保小の架け橋プログラム」で幼児教育施設と小学校は、3要領・指針及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要¹⁵⁾とされている。そこで挙げられていることから、以下の点を考えたい。

① 子どもの発達の段階を見通した架け橋期の教育の充実

今回は幼児教育から小学校教育を見つめ直したが、今後は幼児教育施設において、小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」等に向けた資質・能力をどのように育んでいけばいいかを考えていきたい。

② 架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手掛かりとしながら、小学校1年生の修了時期を中心に、架け橋期の教育目標や日々の教育活動を評価していきたい。

③ 架け橋期の教育の質保障のために必要な人材の育成

幼保小に対してコーディネートができる架け橋期アドバイザーを育成していきたい。幸いにも著者は幼稚園教諭と小学校教諭の養成に携わっている。今後、学生へそれぞれの視点から架け橋期の教育・保育をどのように進めるといいかを考えることができよう指導をしていきたい。

最後になりましたが、本稿にご協力をいただくと共に、長年にわたり協働的に研究を進めていただいている福岡市立笹丘小学校 明石京子校長先生、授業者の深水南那先生、第1学年の大城梨子先生、林真樹先生、田中希和先生をはじめ、同校の教職員の皆様に感謝申し上げます。

<参考文献>

- 1) 文部科学省 中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」、2023
- 2) 前掲書 1) pp. 11-13
- 3) 文部科学省「第4期教育振興基本計画」、pp. 1-10、2023
- 4) 斎藤博伸「園から高等学校 学びを滑らかに接続する」、生活科・総合的学習ブックレット、第17号、pp. 2-4、日本生活科・総合的学習教育学会、2021
- 5) 石井健作「子どもの「考え」に着目した生活科学学習指導に関する一考察—第4期教育振興基本計画との関連から授業実践を見つめる—」、pp. 1-13、教育実践研究、Vol.8、福岡女学院大学教職支援センター、2024
- 6) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」、p. 183、2018
- 7) 厚生労働省「保育所保育指針」、2017
- 8) 秋田喜代美他編「新時代の保育双書 保育内容 環境」、pp. 33-40、みらい、2019
- 9) 前掲書 6) pp. 34-35
- 10) 例えば、福岡市立笹丘小学校「令和5度 テーマ研究集録」、2024
- 11) 例えば、石井健作、井上直子「生活科授業における『共通体験』の有効性」、pp. 65-74、福岡女学院大学紀要、第20号、福岡女学院大学、2019
- 12) 児童用教科用図書「どきどきわくわくあたらしいせいかつ (上)」、東京書籍、pp. 62-77、2024
- 13) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」pp. 41-43、2017
- 14) User Local AI テキストマイニング <https://textmining.userlocal.jp/>
- 15) 前掲書 1) p. 6